

## IV. 学生スタッフ 活動報告



# 1. 学生新聞「SHIZUOCAN」

平成30年1月より学内募集したCOC+学生スタッフにより、平成30年度刊行を目標に学生新聞「SHIZUOCAN」の作成を始めた。COC+学生スタッフは、地域連携等に興味を持つ地元学生など、静岡大学学生3名がメンバーとなり、活動を展開している。

学生新聞「SHIZUOCAN」は「静大発“ふじのくに”創生プラン」内で行われている事業の学生認知度を上げ、県内就職や地域連携に関する情報を発信していくため、学生目線でCOC+事業を広報する広報誌として企画された。

学生スタッフは、COC+事業のイベントへ参加してその状況をレポートし、イベント参加者や運営側へのインタビューなど、独自取材を行った。また、静岡県内での就職を始める学生にとって有益な情報源となる就職支援担当教員へのインタビューや、一般学生への意識調査なども行った。これらの取材内容を下に、参加校をはじめとする多くの学生にとって分かりやすく、かつ魅力的なコンテンツを企画・制作し、学生新聞「SHIZUOCAN」に落とし込んでいった。

学生新聞「SHIZUOCAN」創刊号は、平成30年度初旬刊行を目標に、今後も年4回ペースでの発行を目指し、COC+参加校の学生窓口等で配布することで、静岡県内の企業や静岡県で働くことの魅力を発信していく予定である。



イベントに参加しながら取材を行う様子



魅力的なコンテンツについて議論する様子



SHIZUOCAN 表紙



SHIZUOCAN紙面(1)



SHIZUOCAN紙面(2)

## 2. 静大発 “ふじのくに” 創生プラン広報用ポスター作成

静岡COC+連携協議会では、平成30年1月に「静大発 “ふじのくに” 創生プラン」の更なる発展、認知度向上のために、広報用ポスターの作成を始めた。このポスターは、事業協働機関である静岡新聞社のグループ会社であるSBSプロモーション様の協力の下、学生のアイデアを中心に作成が進められた。

ポスターのキャッチコピーについては、平成30年度1月に組織されたCOC+学生スタッフ（黒内康平：静岡大学理学部2年、藤井拓人：静岡大学人文社会科学部2年、松本美波：静岡大学人文社会科学部2年（学年は当時））の3名が同社講師によるワークショップを受講し、その中でアイデアを出し合った。

コピーを考える全2回のワークショップでは、現役コピーライターの片桐義晴氏が講師を務め、学生スタッフは代表作品等の鑑賞などからコピーライトの基礎基本を教わった後、学生のアイデアを持ち寄り、他の作品等を参考にしながら、持ち寄ったアイデアを修正していき、最終的にキャッチコピーを決定していった。COC+学生スタッフは、片桐氏からのアドバイスや他の作品を見ながら、3名で議論しあい、「静大発 “ふじのくに” 創生プラン」に合う文言を熟考し、キャッチコピーを作成した。

また、COC+参加校学生をポスターの写真モデルに起用し、学生にも親しみやすいデザインになるよう、平成30年度の完成を目指して制作に取り組んだ。完成したポスターは県内事業協働機関、参加校、協力校や、静岡COC+連携協議会主催のイベント等で使用される予定である。



第1回ワークショップの様子(1)



第1回ワークショップの様子(2)



第2回ワークショップの様子(1)



第2回ワークショップの様子(2)